

◎ポラス、早大との分譲住宅地開発が採択

ポラスと早稲田大学総合研究機構の研究グループとの共同研究「自然との共生を実現する『Garden City型』次世代住宅地モデル開発」（2013年度）が、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「官民による若手研究者発掘支援事業」にこのほど採択された。

研究グループは早稲田大学高等研究所講師の山村崇所員らが参加。テレワークといった新たな就業スタイルの普及を前提に、大都市圏外縁部で現代的居住需要に応えつつ、人間居住と自然との共生を実現する「ガーデンシティ型」の次世代住宅地モデルを開発する。共同で技術開発と事業化に取り組み、環境配慮で持続可能な社会の実現に貢献する事業モデルをつくる方針。

ポラスグループは今後の分譲住宅地開発で、研究成果を入れ込んで用地選定から商品企画までの過程をシステム化し企画開発期間を短縮、「資産価値」「健康価値」「環境価値」の3つの評価軸によるアセスメント手法を確立する。